

事業番号	15 06 01	事業改善シート（令和6年度実施事業分）	□当初要求 ■当初予算案 □補正予算案 □点検
事業名	「探究的な学び」推進事業費	部局	教育委員会事務局
		課・室	学びの改革支援課
		実施期間	H30 ~
		E-mail	kyogaku @ pref.nagano.lg.jp

1 現状と課題

変化が激しく予測困難な時代に直面する中、「新たな社会や価値を創造する力」を育成するため、大学や企業等と連携した探究的な学び、多様で新たな学びを推進していく必要がある。

2 事業目的

高校での学びを従来の知識を蓄えることを中心とした学びから、他者と協働した能動的な活動の過程で考察・理解を深めることを中心とする「探究的な学び」に転換していく。その学びの中で、生徒が「知識・技能」とともに「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく身に付けるようにする。生徒が「探究的な学び」を地域や世界の中で深めることで、自己の在り方や社会との関わりについて、地域に根ざしたグローバルな視野で考え、自ら構想したキャリアデザインを実現できるようにする。

3 事業目的を達成するための取組

- ①VUCAの時代に対応して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成
- ・将来、国際的に活躍するための科学技術関係の探究力を培うため、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定校を支援
 - ・高校段階においてデジタル等成長分野を支える人材を育成するため、DXハイスクールを創出
 - ・県立高校において、特色あるカリキュラムを編成し、キャリア形成につながる学びや「主体的・対話的で深い学び」を実現
 - ・高校生の進学を支援するため、高大接続改革に係る最新の情報や効果的な実践事例を各校が共有する機会を提供
 - ・キャリア教育を推進し、高校生の多様な進路選択を実現するため、就業体験活動の経費支援等を実施
- ②生徒の「学びたい」を支える、多様な学びの場や学びの選択肢の充実
- ・先進的、先端的な研究開発に取り組む実践校を「未来の学校」として指定し、支援。また、成果を他学校へ普及することで、高校教育の質的向上、多様な学びの場の創造を図る。
 - ・優れた指導者のファシリテートのもとで、各校の探究的な学びの質を高めるために、学校の枠を超えて生徒が一同に会して学びの成果を発表し合い、互いに自らの今後の成長の方向性を確認する機会を提供
 - ・高校生の芸術文化活動の活性化を図るため、県・支部単位で開催される創作活動成果の発表会や大会等への参加を支援
 - ・世界で活躍できる資質・能力を育成するため、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアムにおいて、オンラインを活用した文理横断的な学習プログラムを開発し、ALネットワーク（高校と外部機関の連携によるアドバンス・ラーニング・ネットワーク）を拡大
 - ・信州に根差したアイデンティティと将来世界で活躍できる高校生を育成するため、「信州つばさプロジェクト」として県企画プログラムや個人留学支援を実施。また、海外留学の促進に向け、ウイングシェアプログラムとして留学報告会等を開催
 - ・子どもたちの多様な進路選択、興味関心に対応するため、サマースクールを開催し、高校生が国際的に活躍する社会人や大学生等と交流する機会を提供

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	見込値	推移				
①	インターンシップ実施校率	%	73.4	91.1	↗	-	-	90	△	インターンシップ実施校率を高めることで、高校生の多様な進路選択を支援するため、令和6年度は90%以上を維持する	
②-1	探究的な学びの質を高める大会・コンクール・発表会への参加生徒数	人	347	384	↗	400	↗	420	△	探究的な学びの質を高める大会等への参加者を増やしていくため、令和6年度は420人を目標として設定	
③-1	海外留学に向けた啓発イベント参加者数	人	108	114	↗	200	↗	200	△	海外留学を促進するための説明会等を実施し、総合5か年計画に掲げる海外への留学者率を高めていくため、令和6年度は200人を目標として設定	

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	学校の教育活動全般に対する生徒(高校生)の満足度	%	2020 (R2)	84.2	2021 (R3)	84.3	2022 (R4)	85.3	2027 (R9)	84.3
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	★高校生の海外への留学者率	%	2020 (R2)	0.01	2021 (R3)	0.03	2022 (R4)	0.67	2027 (R9)	2.0
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	公立高校現役生で進学希望者のうち進学した者の割合	%	2020 (R2)	91.2	2021 (R3)	92.4	2022 (R4)	92.6	2027 (R9)	94.9
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	公立高校卒業後就職希望者の就職内定率	%	2020 (R2)	97.9	2021 (R3)	98.5	2022 (R4)	98.1	2027 (R9)	99.5

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R6年度	予算案		613,178		613,178	337,686	13.0
	要求		412,705		412,705	310,684	
R5年度	0	412,687	200,000	612,687	314,784		13.0
R4年度	0	417,832	△ 23,172	394,660	329,640	360,827	13.0
予算要求からの 主な変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・「県立高等学校DX加速化推進事業」を追加 ・「高校生学びのフォーラム長野」と「信州学」推進事業の中に、「高校生による中学生の主体的な進路選択支援事業」を追加 						

事業番号	15 06 01	細事業一覧（令和6年度実施事業分）	□当初要求 ■当初予算案 □補正予算案 □点検			
事業名	「探究的な学び」推進事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課

細事業 No.	細事業名		R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
1	科学教育推進事業		10,418 千円	10,535 千円	予算案 16,287 要求 16,287 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	科学オリンピック養成講座	直接	ものづくり、イノベーションを支え、世界で活躍できる科学技術人材を育成するために、物理・化学・生物・地学・情報・数学の大学教員による実力養成講座を実施し、自然科学等を学ぶことの面白さを伝える。また、各種科学コンテスト参加者を増やし、勝ち抜いていくための実力を養成する。 実力養成講座5分野（物理、化学、生物、地学、情報）に各10名程度参加		
2	サイエンス・アソシエーション・プロジェクト	直接	ものづくりやそれにつながる基礎研究に対する生徒の興味喚起や視野拡大、また、国際性の涵養や卓越性の伸長を図り、世界で活躍できるグローバル人材を育成するため、県立高校が企画して実施する、大学・研究機関・企業と連携して行う科学技術に関する国内研修を募集し経費を助成する。 上限300千円/校、15件		
3	信州サイエンスキャンプ	直接	理数系科目への興味・関心を高め、将来地元産業を支える科学技術系人材を育成するため、自然科学系部活動、理数科等の生徒同士の交流を通して、切磋琢磨できる場を開催する。 信州サイエンステクノロジーコンテスト、課題研究合同研修会、信州サイエンスミーティングを各1回開催		
4	スーパーサイエンスハイスクール指定校支援事業	直接	生徒の科学的能力を培い、将来、国際的に活躍する科学技術関係人材を育成するため、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定校に対する事業支援と指導を実施する。 指定校：飯山高校、屋代高校・附属中、諏訪清陵高校・附属中		
5	信州みらいクリエイターズ育成事業	直接 委託	プログラミング教育を含む他の教員を指導できる実力を持つ教員を育成するための、リーダー（フェロー）養成研修を実施する。 信州のものづくりを支える人材養成を図るため、小中学生を対象に「信州Makers教室」「信州Makersキャンプ」の開催を民間事業者に委託する。 信州Makers教室2地区開催、信州Makersキャンプ1回、Makersフェロープログラム16回		

細事業 No.	細事業名		R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
2	県立高等学校DX加速化推進事業		0 千円	0 千円	予算案 200,000 要求 0 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県立高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）	直接	高校段階においてデジタル等成長分野を支える人材を育成するため、DXハイスクールを創出し、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校の環境整備を行う。 高等学校20校		

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
3	カリキュラム編成支援事業	95,899 千円	95,899 千円	予算案 91,276 要求 91,276 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	カリキュラム編成支援事業	直接	<p>県立高校において、特色あるカリキュラムを編成し、キャリア形成につながる学びや「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、非常勤講師又は学習支援員を配置する。</p> <p>非常勤講師76校、学習支援員50校に配置</p>	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
4	学力向上推進事業	14,418 千円	10,214 千円	予算案 9,392 要求 9,392 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	教育課程改善推進事業	直接	<p>文部科学省主催の各教科担当指導主事連絡協議会等への参加による情報収集及び伝達を行う。</p> <p>各教科担当指導主事連絡協議会4回、教育課程研究協議会4地区各1回</p>	
2	高大接続改革対策支援事業	直接	<p>高大接続改革や探究的な学びに向けた各校の取組・実践を推進するために、研究協議会、研修会等の実施と各校の取組に対する支援を行う。</p> <p>進路指導研究協議会1回、入試情報システム30校導入</p>	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
5	キャリア教育推進事業	4,008 千円	4,008 千円	予算案 3,808 要求 3,808 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	キャリアデザイン力育成事業	直接	<p>生涯にわたるキャリアデザイン力を育成し、発達段階に応じた社会的・職業的自立を図るために、就業体験活動等の経費を負担する。</p> <p>キャリア・チャレンジ・プログラム:損害賠償保険補助約7000名分</p>	
2	高等学校教科競技大会派遣事業	交付金	<p>教科競技の振興を図ることで専門性を高めた学びを実現するため、専門高校の全国大会等への参加に係る経費を補助する。</p> <p>交付先:高等学校教科競技大会に参加する団体</p> <p>補助対象延べ30校程度を支援</p>	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
6	特色ある学科設置事業	6,334 千円	6,399 千円	予算案 6,084 要求 6,084 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容(予定)(上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	県立高校「未来の学校」構築事業	直接	<p>「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」に基づき、先進的・先端的な研究開発を行うため、異なるテーマの実践校6校を指定し、概ね5年間研究開発に取組み、評価・検証を行いながら成果の普及を図る(R6年度は5年計画の5年目)。</p> <p>「未来の学校」実践校6校(野沢北、須坂、飯田風越、木曾青峰、坂城、松本深志)の実践研究推進の支援、成果の普及に向けた報告会等の支援を実施</p>	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
7	「高校生学びのフォーラム長野」&「信州学」推進事業	9,773 千円	9,773 千円	予算案 9,490 要求 9,017 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	「信州学」推進事業	直接	地域の中にある課題を発見、解決する能力の育成を図るとともに、信州に根差した確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野を育成するために、地域に根差した探究的な学びの推進を支援する。 全県立高校（101校）で信州学を実施	
2	「高校生学びのフォーラム長野」推進事業	委託	優れた指導者のファシリテートのもと、各校の探究的な学びの質を高めるために、学校の枠を超えて生徒が一同に会して学びの成果を発表し合い、互いに自らの今後の成長の方向性を確認する機会を提供する。 スタートアッププログラム、中間相談報告会、伴奏者フォーラム、マイプロ長野県サミット各1回開催	
3	高校生による中学生の主体的な進路選択支援事業	直接	【新】中学生の進路選択の理解を深めるため、高校生等が企画運営する高校の取組を発信する合同説明会の開催を支援する。 県内4か所	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
8	学校芸術文化振興事業費	22,174 千円	19,646 千円	予算案 16,218 要求 16,218 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（予定）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	長野県高等学校文化・芸術フェスティバル	負担金	高校生の芸術文化活動の活性化を図るため、県・支部単位で開催される創作活動成果の発表会について、開催経費の一部を負担する。 交付先：県高等学校文化連盟 県大会・支部大会で延べ約10,000人を支援	
2	高等学校文化振興事業（大会生徒派遣事業）	交付金	高校生の文化活動の、より高いレベルでの成果発表を支援するため、全国大会、ブロック大会に出場する生徒の参加経費の一部を補助する。 交付先：県高等学校文化連盟 全国大会（13大会）、ブロック大会（5大会）への参加支援	
3	高等学校芸術文化鑑賞事業	直接	定時制・通信制の高校、小規模校が芸術文化鑑賞に触れる機会を確保するため、学校行事として行う芸術文化鑑賞に関する公演料と交通費の一部を助成する。 約6,000人を支援	
4	2018信州総文祭を次世代につなぐ文化部活性化事業	負担金	2018信州総文祭開催を契機にレベルアップした文化部活動が継続的に発展するとともに、その成果を普及させるために、技術講習会等の実施経費を負担する。 負担先：県高等学校文化連盟の該当する専門部 講習会のべ80回	

細事業 No.	細事業名	R4年度 当初予算	R5年度 当初予算	R6年度 当初予算
9	グローバル人材育成事業	251,700 千円	256,213 千円	予算案 260,623 要求 260,623 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容(予定) (上段:事業概要、下段:活動によるアウトプット)	
1	WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業	直接	WWL事業のカリキュラム開発拠点校、共同実施校を中心に研究開発した、イノベティブなグローバル人材育成に資する文理横断的な学習プログラムをデジタルコンテンツ化し、県内の高校生が自宅等学校以外でも受講できる仕組みを整備するとともに、受講した高度な学びについて、単位認定の在り方を調査研究する。 拠点校(上田)、共同実施校(松本県ヶ丘)、連携校16校	
2	「海外での学び」推進事業 (信州つばさプロジェクト)	直接	高校生の留学気運の向上を図るため、留学フェアの開催や事業の広報活動等を行う。 高校生の海外留学の「最初の一步」を支援するため、教育委員会と連携協定を結んでいる台湾をはじめ、オーストリア、カンボジア、マレーシア等で、県が企画する短期留学プログラムを実施する。	
		負担金 補助金	高校生の留学者数を倍増させるため、個人留学に対して、行先と期間に応じて経費の一部を補助する。補助金交付先: 県内の高校生 県企画4コース(90名)、個人企画(短期・長期 50名)	
3	高校生海外研修事業	補助金	高校生の海外大学進学を促進させるため、国費による学校単位の留学支援を行う。 補助金交付先: 県内の高校生 学校単位の留学企画3件	
4	信州英語教育ルネサンス事業	直接	英語4技能をバランスよく育成するため、小・中・高校の英語教員を対象にした研修やパフォーマンステストの実践を研究する協力校を募集し、モデル授業を普及 小中校の英語教員を対象とする長野県英語教育フォーラム1回、研究協力校、教員研修	
5	児童生徒の英語力向上支援事業	直接 委託	【新】学んだ英語を活用して、他者と協働しながらコミュニケーションを行うことを通して、英語力や学習に対する意欲を高めるため、授業への外部人材派遣や海外留学体験機会を創出 委託先: 民間企業・団体 県内小学校に外部人材を派遣、中学生向け1日海外留学体験企画2回	
6	外国語指導助手(ALT)配置事業	直接 委託	高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等へ外国語指導助手を配置する。 高校生の豊かな英語コミュニケーション力と異文化理解のため、県立高校等への外国語指導助手の配置を業務委託する。委託先: 民間事業者	
		負担金	ALT43名を配置	
7	サマースクールを活用した多様な学びの機会創出事業	負担金	【拡】子どもたちの多様な進路選択、興味関心に対応するため、高校生が国際的に活躍する社会人や大学生等と交流するサマースクールを拡充するとともに、新たに学校ごとにミニサマースクール(交流会・座談会)を実施する。 サマースクール参加者数80名程度、ミニサマースクール5校(75名程度)	